

2016年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学
ボランティアセンター

目 次

はじめに

センター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	4
ボランティア登録について	5
ボランティア活動の心構え	5

ボランティア活動

①ちよこボラ（ちよこっとボランティア）	6
②東日本大震災ボランティア	8
③海外ボランティア	12
④学生サポーター	14
⑤他機関連携	15
⑥学内ボランティア	20
⑦学外ボランティア	23

学生グループ活動（サークル紹介）

(1) OPEN	28
(2) のびっこの会	29
(3) 学生YM(W)CA	29
(4) 西南ラブ・グリーン	30
(5) ワークキャンプ部	30
(6) 手話サークル とびうめ	31
(7) ノートテイクサークル	31
(8) Think & Act	32
(9) 西南FIWC 九州	32
(10) いと	33

そ の 他

学生ボランティア団体助成	33
印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)について	34
活動室の利用について	34
社会福祉協議会(社協)	34
2015年度ボランティアセンター活動記録	36

はじめに



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学にご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。これから始まる学生生活、友との出会い、師との出会い、学問との出会いの中で、豊かな時間を過ごしてください。

本学では、ボランティア活動を建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置づけ、学生・教職員等によるボランティア活動を支援・推進する部署としてボランティアセンターがあります。ボランティアセンターは、さまざまなボランティアの情報を提供し、皆さんの相談に応じています。お弁当容器やペットボトルキャップ、古本や古切手などを提供する身近なボランティアから、学生サポーターで地域の小・中学校で活動するボランティアや重度障害児者施設の久山療育園でのボランティアもあります。

また、昨年度は、東日本大震災ボランティアとして被災地に16チーム・92名の学生・教職員を派遣し、帰福後も街頭募金活動やチャリティコンサートなどの活動を福岡で展開しています。さらに、海外に目を向けると、フィリピンへ派遣する海外ボランティア・ワークキャンプが2003年度から実施されており、昨年度は18名の学生・教職員を派遣しました。他にもガイドブックで紹介しているボランティア活動のサークルもあり、皆さんの参加を心待ちにしています。学内だけでなく、学外からのボランティア依頼にも対応しています。

ボランティアは、子ども・高齢者・地域・環境・国際交流など、幅広い分野で展開されています。大学在学中にボランティア活動をすることで、同年齢だけでなく、乳児から高齢者まで、多くの幅広い年齢の方々や仲間と出会い、社会・地域・施設・行政・企業などとの出会いがあり、視野が広がることでしょう。自分に合う活動を見つけることで、自分自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面と出会えるかもしれません。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。ボランティアセンターは、皆さんをいつも応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

- 【場 所】 ボランティアセンター事務室：1号館 2階 エレベーター横
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail：swvoc@seinan-gu.ac.jp
- 【開室日】 通常期間 月～金 8:45～17:20
(長期休暇中や行事などで閉室する場合があります)
- 【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日
- 【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会



【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・海外ボランティア・ワークキャンプ
- ・学生サポーター
- ・他機関との連携
- ・久山療育園ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・ストプロ★寄付本プロジェクト
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・学内の各部署が募集するボランティア
- ・イベントのお手伝い（障がい者施設・高齢者施設・学内など）
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・地域活性化活動（商店街など）
- ・街頭募金活動
- ・その他

ボラセンからメッセージ

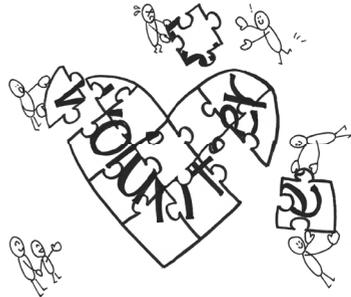
ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

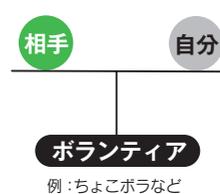
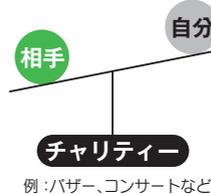
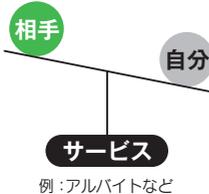
高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいこと
ようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない”“あの人の為に何かしたい・・・”そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時
に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

イメージしてみよう！



ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

義務や強制ではなく、“やりたい”と自分の意志で行う活動。自分の気持ち活動を活動として表現するので、人の心に働きかける力を持っている。

先駆性・創造性

今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動。

無償性・非営利性

金銭的な報酬を期待するものではなく、自己満足することを目的としてはいけない。しかし、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、発見を得ることができる活動。

社会性・公益性

多くの人と出会い、支え合い、学び合う活動。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！ （1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象に講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座と一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（5ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。



※ボランティア活動保険に加入しよう！
（35ページ参照）



③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲示しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をMoodleからメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。
(登録料・会費などは、一切かかりません。)

【登録方法】

E-mail swvoc-vol@seinan-gu.ac.jp 宛に
タイトル「ボランティア登録」
本文に ①在学番号 ②氏名
をご記入の上、送信してください。
※メールは、在学番号のアドレスへ配信いたします。



《ボラセンのHPからも登録できます。》

ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリーは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割で関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1) 東北を応援するボランティア

① 東日本大震災義援金

東日本大震災復興支援の義援金を送ろう！

本学では、震災発生直後から義援金を募って被災地へ届けています。

日本パブテスト連盟の被災者救援募金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

※本・支店窓口(ATMを除く)から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



② お弁当容器の回収（義援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に義援金を届けよう！

リリパック回収による払戻金が東日本大震災の被災地へ送る義援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！割れても大丈夫です！

弁当容器1個が10円の義援金として募金されます。

※生協、すずらんで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

1号館：2・3階エレベーターホール、

2号館：学生ホール、2階廊下、学術研究所1階ロビー、

西南クロスプラザ1階、西南会館…生協食堂、西棟1階ラウンジ



③ 「福島へ西南水を届けよう！」プロジェクト

福島へ西南水を届けよう！

福島に西南水を届ける募金を展開しています。学院創立100周年を記念して作られた「SEINAN SUI（西南水）」は、1本100円（税込）です。あなたの100円で、西南水1本を届けることができます！西南水は、購入するだけでも売上金の一部が、東日本大震災の復興支援に充てられます。

【方 法】募金箱に募金をする。

【設置場所】募金箱：ボランティアセンター

販売先：大学生協、クロスプラザ・キャンパス内自動販売機など



(2) ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合があります。

【回収ボックス設置場所】

本館、1号館2階入口、1号館3・4・5階の休憩室、2号館2・3・4階、4号館1階、西南会館、体育館前、生協食堂、クロスプラザ、2号館学生ラウンジほか



(3) ストプロ寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、路上で迷う若者たちを救いませんか？

親元で暮らせない子どもたち、不登校になった子どもたちに、高卒認定資格のための学習無料塾や就労のためのスキルアップ、居場所を提供する活動を行っている「一般社団法人ストリート・プロジェクト（略称ストプロ）」という団体があります。不要となった古本などを寄付し、売却代金をストプロへ寄付するプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所、コミュニケーションプラザ各階ロビー、法科大学院事務室内、1号館2階ボランティアセンター
※業者の回収は、原則、第1火曜日です。

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK

CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

(書籍) 百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ

(CD/DVD) ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4) その他（古切手・書き損じハガキ）

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手（使用済み切手）

封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



② 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらし、完全に復興するまでには、まだまだ時間がかかります。本学からも学生や教職員を派遣し、ボランティア活動を行っています。

2011年度	派遣	9チーム	102名
2012年度	派遣	10チーム	116名
2013年度	派遣	17チーム	133名
2014年度	派遣	16チーム	87名
2015年度	派遣	16チーム	92名

5年間
延べ活動者
68チーム
530名

派遣の形態は、次の5種類があります。(※日数や活動、金額等は変更になる場合があります)

(1) 日本バプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から、毎年実施している活動。岩手県や宮城県の教会が毎月仮設住宅を支援している活動の中で、一緒に活動する。

仮設住宅：(岩手県)大槌町

(宮城県)石巻市牡鹿半島・亶理町・山元町

参加費用：20,000円(2015年度実績)

形態：1チーム13名(学生11名・引率2名)



経済学部 国際経済学科 大木薫

(SMILE チーム：宮城県で活動)

私は去年初めて東北ボランティアに参加しました。震災から4年経っていましたが、まだまだ復興までの道のりは長いのだと改めて感じました。今回は現地の方々との交流が多く、私たちが元気を与えなければならない立場だったのに、逆に元気をもらうことが多かったです。きっとボランティアは自分にとっても良い経験になります。ぜひ少しでも関心がある方は東北の方へ足を運んでみてください。

人間科学部 社会福祉学科 川口恵

(グリーンめんたいこ〜ずチーム：岩手県で活動)

2年間同じ場所に行かせていただいて最も印象に残ったことは、去年から今年の1年間の復興の進み方が遅いことです。去年は「もうこんなに進んだんだな」と思いましたが、今年は「去年とほとんど変わってないな」と感じました。現地に行くと、メディアで得る情報をはるかに超えるものが得られます。ぜひ東北に興味のある方は、自分の目で、心で、今の東北を見に行ってみてください。

(2) 大学間連携災害ボランティアネットワーク (事務局：東北学院大学)

2011年9月から、毎年実施している活動。全国105の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動する。活動内容は、多岐にわたり、毎年、異なる。

切符の手配などは、個人で行う。引率はなし。活動終了後、一定の手続きを経て、交通費実費相当額 (上限：25,000円) を支給する。(2015年度実績)

(3) 復興支援インターン (事務局：復興大学・東北学院大学、共催：復興庁)

2013年から、夏と春に、毎年2回実施。東北の企業でインターンし、企業の復興を通して、東北の現状や課題を学ぶ。復興への経営者の想いを直接聞き、社員の方々と直接話すことができる。帰福後、大学で情報発信し、企業を応援するプログラム。

切符の手配などは、個人で行う。引率はなし。活動終了後、一定の手続きを経て、交通費実費相当額 (上限：25,000円) を支給する。(2015年度実績)

(4) 学部やゼミ単位での活動

学部やゼミ単位で、企画され認められた活動。

一定の手続きを経て、交通費補助を実施する。

(5) その他

福岡県主催の災害ボランティア養成講座など、連携先との事業により派遣する。



法学部 法律学科 富松勇介

(東北学院大学へ派遣：山元町で活動)

山元町ってどこ？そんな思いから活動を始めたボランティアでしたが、感じたことは福岡に留まって考えるだけでは分からないことがあるということでした。被害を受けたて簡単に終わらせるのではなく、震災で多大な被害を受けた地に実際に赴き目で耳で感じたことはとても重く自分にのしかかりました。震災の爪痕を見ることと同時に人の温かさに触れるいい機会かもしれません。被災してから個々人の記憶から薄れつつあるいまだからこそ自分自身で体験してほしいです。

経済学部 経済学科 神崎健太

(東北学院大学へ派遣：気仙沼で活動)

震災から5年。復興までの道のりは現在進行形で続いています。だからこそ、現地の人と連携して意見交換し合う仲間に刺激を受けました。また、実際に被災地を訪れ、現地の人の生の声を聞くこともボランティアの一つだと感じました。「ボランティアをやってみよう！」という人、まずは一度被災地に足を運んでみてはいかがでしょうか？きっと日常では計り知れない貴重な体験になるはずです。たくさんの方との出会い、新しい自分を探して、一歩を踏み出してみませんか？

帰福後の活動

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。

学生たちは、東北の活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はボラセンにお問い合わせください。

2015 年度実績

(1) 東日本大震災ボランティア報告会(12月14日)

2015年度東日本大震災ボランティアで活動した学生たちがチーム毎に発表しました。

先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」が、つながって「線」になっていることを実感しました。



(2) 活動報告

大学チャペルや神学部チャペルで講話（活動報告）を担当しました。

また、鳥飼教会、古賀教会、長住教会、福岡ベタニヤ村教会、姪浜教会など、バプテスト連盟の各教会でも報告しました。さらに、前原公民館や姪浜商店街など地域の皆さんや西高宮小学校5年生の子どもたちに向けて情報発信しました。



(3) パネル展示 (6月24日・6月27日)

「震災を忘れない！」学内パネル展

東北の現状をパネルに作成して展示し、情報発信しました。



文学部 外国語学科英語専攻 田嶋美希

(復興支援インターン：石巻で活動)

今回の活動で初めて東北に行く機会を得た私にとって、現地でしか見られないもの、感じられないことを身をもって体験できたこと、そして受け入れ企業の方々や他大学の学生との貴重な出会いに恵まれたことは、かけがえのない体験になりました。被災地という、プラスのイメージを持たれる方は少ないと思いますが、私は石巻の美味しい海鮮、そして温かい町の方々との出会いを通して、たくさんの勇気ももらい石巻の大ファンになりました。みなさんにもぜひ東北に足を運んでもらい、東北、石巻の良さを知ってもらいたいです。

法学部 国際関係法学科 安西悠希

(復興支援インターン：山元町、気仙沼、南三陸で活動)

発災時、災害に対して意識の低かった自分を痛切に後悔し、復興支援インターンへの参加を決めました。現実の立ち行かなさや暗さに直面する一方、現地の人々の優しさや明るさ、同居する弱さと強さ、それらすべてに惹かれ、人生の転機になりました。今は東北が好きだという思いで福岡で情報発信をしています。自分の小ささも痛感してきましたが、それでも関わり続け、東北の人々を好きでい続けることが、復興に向けた1番の力になると思っています。

(4)第3回東日本大震災復興支援チャリティコンサート(6月27日)

卒業生と在校生が一体となって、東北に想いを寄せて、コンサートを開催しました。ロビーでは、パネル展示や仮設住宅の方が作られた小物を販売したり、「心は一つコースター」プロジェクトを展開し、東北へのメッセージを集めました。

第1回目のコンサートを立ち上げた先輩たちも駆けつけてくれました。



(5)大学祭にて模擬店出店(11月12日~15日)

夏にインターンでお世話になった宮城県の企業から材料を仕入れ、サンマのつみれ汁、ほたてやきそば、金華サバの竜田揚げ、いちごのストラップを販売しました。また、仮設住宅の方が作られた小物を販売し、純利益は東日本大震災義援金に募金しました。模擬店ではパネル展示も行い、東北の現状を発信しました。



(6)はるかのみまわり

阪神・淡路大震災ゆかりの「はるかのみまわり」絆プロジェクトに参加し、キャンパスに「みまわり」の種を植えました。2012年度震災ボランティアに参加した先輩たちが宮城県門脇小学校から持ち帰った種でした。毎年、みまわりを育てることを通して、阪神・淡路大震災、東日本大震災のことを忘れずに、命の大切さについても語り続けています。2015年は、西南学院のキャンパスで採取した種を広島土砂災害で被災した、安佐南区「阿武の里」花いっぱいプロジェクトに届けました。



(7)その他(東北へ想いを届ける!)

毎年、クリスマスカードに手書きのメッセージを添えて送っています。

手芸用品を届け、仮設住宅で可愛い小物の作品となったものを委託販売しています。

また、野球道具、カイロなど、その時必要な物品を届けたり、「福島へ西南水を届ける!」募金や活動も展開しています。



③ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003年度から、毎年フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本とフィリピンの国際飢餓対策機構と連携し、同じアジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域での奉仕活動を行い、ボランティアマインドを育成することを目的に活動しています。

1. 活動期間：2月～3月の11日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域での奉仕活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15名



商学部 経営学科 簀原匠

私はフィリピンで人の温かみを改めて知りました。「治安の悪い貧しい国」と言ったイメージを持っている方は少なくないのではないかと思います。言語を介した二次情報と体感した一次情報では雲泥の差があります。日本が物質的豊かさで引き換えに犠牲にしてきた精神的豊かさがある。それが私の感じたフィリピンの姿でした。参加した人それぞれの姿があると思います。それは経験抜きに語ることは出来ません。参加して素晴らしい経験をしてみませんか？

人間科学部 心理学科 江藤桜子

たくさんの笑顔に出会えるキャンプでした。フィリピンの方の笑顔はキラキラしていて、心が温かくて、日本人よりも心が豊かだなぁと思わせる程でした。普段の日常の中に、当たり前なんて何もない、そんな大切な事にも気付かされました。新たな一歩が踏み出せれるようになったのもこのフィリピンの経験のおかげです。いろんな事を考え泣いて笑って、最高に楽しかったあの12日間の思い出は、私にとって原点と言えるほど、かけがえない宝物になりました。

国際文化学部 国際文化学科 石橋素子

異文化に触れたこと、子どもたちの溢れんばかりの笑顔、お母さんたちの行き届いたおもてなし。刺激がたくさんあって私には吸収しきれないくらい充実した12日間でした。家族そろっての暮らし、温かい食事、明かりの灯った家。日本はとっても恵まれていました。そのことを再認識。感謝の気持ちは持つだけでなく、ちゃんと言葉にして伝えることが大事。帰国したら、家族や友人、自分を取り巻く人たちに「ありがとう」を伝えたいなりました。

人間科学部 社会福祉学科 吉村健汰

水道の蛇口を捻れば水が出る。今までこの事に驚き、感動したことはありませんか？今回参加して日本での生活は当たり前ではないと実感しました。自然と感謝の気持ちが生れました。最初はボランティアをしに行くものだと思っていたこのプログラム。しかし、自分たちの方が学ぶことが多く、参加メンバー全員に変化があり、成長が見られました。そして、自分にとってフィリピンでの経験は、かけがえないものになりました。

海外ボランティア支援

西南学院大学のグローバル化を進めるための方策の1つとして、海外ボランティアに参加する学生を支援するために、補助金を支給しました。初年度の2015年度の対象プログラムは、「NGO 合同説明会 in 西南学院大学」に参加した団体主催のボランティア及びスタディツアーでした。この制度を利用して、タイ、フランス、ベトナム、中国、フィリピンなどで、学生たちが活動しました。

①Peace Village Community Development

派遣国：タイ

参加団体：NPO 法人NICE

活動期間：2015年8月20日～9月3日

内容：植林などの農業支援や子どもたちとの交流



国際文化学部 国際文化学科 濱田優

私は2015年の8月にタイで2週間のワークキャンプを行いました。現地ではお寺のトイレ作りや小学校での英語の授業を行いました。タイで現地の人達の生活に触れ、共に生活をする中でボランティアとは何か、幸せとは何か等、日本にいるとなかなか考える機会がないような事について深く考えることができました。また、現地の人達と一緒に生活する中で日本ではあまり感じる事ができない、生活に対する感謝の気持ちを持つことができました。

文学部 英文学科 藤井パリーナ

今回、初めての海外ボランティアで、参加する前からたくさんの不安がありました。しかし、現地の人々は語学の壁を気にせず表情や身振りを使って常に笑顔でコミュニケーションしてくれました。そして、私が特に印象に残ったのは、小学生の英語教育です。1～6年生はクラス内の英語レベルに格差があっただけではなく、集中力も様々でした。そこで私達はゲーム形式にすることで、英語を楽しく学んでもらおうと考えました。もちろん上手くいかずにその場で計画を変更したこともありましたが、子供達が頑張る姿に英語でコミュニケーションをしてあげる姿にはやりがいを感じ、自分が日本に帰国した後も、英語をより深く学べるきっかけになってほしいと強く思いながら工夫を続けました。これからも様々なボランティアを続けたいと考えています。

②Warm X-mas

派遣国：ベトナム

参加団体：NPO 法人NICE

活動期間：2015年12月19日～12月27日

内容：クリスマスのための交流企画



法学部 法律学科 古賀陽介

ボランティアをするための立派な志は必要ないと思います。試しに参加してみよう、というチャレンジができるのは恐れを知らない大学生の特権です。私はベトナムで1週間ボランティア活動に参加しました。私に英語のスキルなんてありません。それでも挑戦しました。自分で決めたことをやり抜くのは今後の人生の自信につながります。海外ボランティアに参加する人と話をするだけでも、今までとは違った見聞が得られるのでは？

④ 学生サポーター

福岡市教育委員会と連携し、福岡市内の学校・幼稚園の要望に応じて、各学校・園へ派遣するというプログラムで、派遣される学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、派遣先の各学校・園において主に、授業や学校行事の補助、クラブ活動の支援などのサポートをしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。※詳細はポータルや、説明会で確認してください。4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。

人間科学部 児童教育学科 小川瞳

(小学校、特別支援学校で活動)

私は、いままで小学校と特別支援学校で学生サポーターをさせていただきました。週に一度の活動ではありましたが、子どもたちが私を遊びに誘おうとして待っていてくれたり、だんだんと心を開いてくれたり、毎回の活動がとても濃かったように感じます。時には声掛けの仕方や促し方などに難しさを感じましたが、それも含め経験していくことによって、多くのことを学ばせていただきました。絶対に自分にとってプラスになることです。興味を持った方はぜひやってみてください。



文学部 外国語学科英語専攻 田之上将士

(小学校で活動)

小学校の先生を目指していた時期があり、学生サポーターとして主に1年生と特別支援学級のクラスのサポートを週2回程度で約半年間しました。授業のサポートや運動会のお手伝い、昼休みに遊んだりして、子供との距離がすごく近くなり、私が来るのを子供たちが心待ちにしている様子が見られ、子供と関わることで、子供を笑顔にすることに魅力を感じました。子供たちや先生方と関わることで、子育てや社会人との付き合い方を実感できる良い機会になりますので、教師になりたい方、子供が好きな方、人のために何かやりたい方、ぜひ参加してみてください。子供たち、先生方が喜んで待っています。



国際文化学部 国際文化学科 勢喜恵

(小学校と中学校で活動)

私は、小学校と中学校の学生サポーターをさせていただきました。小学校では、週3回1日中いろんな学年のいろんな授業や行事にはいったので、先生方がどのようなことに気を配りながら、どのように動いているのかということが見えてとても勉強になりました。また、中学校では授業にはいり、教材のお話や、なぜこういう対応をしているのかなどというお話をしていただけで、たくさん吸収できました。



① 久山療育園重症児者医療療育センター

西南学院と同じ日本バプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティア派遣や講習会、チャリティコンサートなどを開催します。

人間科学部 心理学科 末次泰章

私は久山療育園でのボランティア活動を通して、人から必要とされることの嬉しさを感じることができ、たくさんの入居者の笑顔にもふれることが出来ました。職員さんからもたくさんの感謝の言葉を頂き、本当に参加して良かったと思いました。

参加することでしか得られないものがあるところがボランティアの魅力だと思います！



② ノートテイク講座

特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCPの方をお招きし、ノートテイク4時間講座を開催しました。

※ノートテイク・・・聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとなり、授業などその場の「音」を「文字」にして視覚的に伝えるという支援の方法です。

文学部 外国語学科英語専攻 大部あかり

聴覚障がいを持つ知り合いの手伝いができるようにになれば、と思いノートテイク講座に参加しました。当日は「情報保障」という考え方や、ノートテイクの技術などを詳しく、そして、分かりやすく教えていただきました。また、ゲーム等を通して「音の聞こえない世界」がどのようなものかを体験することもできました。この講座を通して、聴覚障がいを持つ方々への支援の大切さを痛感したとともに、その方々が日々どんな風に感じながら生活しているのかということも学び、考えることができ、とても貴重な時間になりました。



③ ネパール緊急支援募金

2015年4月25日にネパール中西部で起きたマグニチュード7.8の大地震により、ネパール及びその周辺国では、建物の倒壊、雪崩、土砂災害など、甚大な被害が出ました。早急な支援が求められる中、本学ではボランティアサークルの学生たちがキャンパス内で募金活動を行いました。皆様から届いた貴重な募金397,761円は、日本バプテスト連盟を通し送金しました。



④ 大学生災害ボランティアサポーター養成講座

福岡県が主催する大学生災害ボランティアサポーター養成講座を本学も連携して実施しました。災害支援に関する基礎知識を学び、実際に災害ボランティアセンターを立ち上げ、運営する訓練（ロールプレイ）を体験しました。

応用研修として、9月には九州北部豪雨ボランティア（福岡県八女市）、春休みには東日本大震災ボランティア（岩手県）で活動しました。

人間科学部 児童教育学科 伊藤貴佳子

私は2度東北に行き、東日本大震災において、たくさんの方の様々な思いに触れ、災害が突然起こった時周りにいる大切な人を救いたいと思い受講しました。今まで知らなかった災害の知識が増え、同じ考えを持つ仲間と思いをぶつけあい共感することができ、とても新鮮でいい経験になりました。ぜひ受講してみてください。

⑤ 福岡県・福岡市合同総合防災訓練

福岡県と福岡市が毎年実施している総合防災訓練が、今年は合同で開催されました。34種類の訓練のうち、初の試みとして「大学生ボランティアによる災害ボランティア本部設置運営訓練」が本学を会場として実施されました。行政、社会福祉協議会、NPO 団体の方々と一緒に、学生たちが訓練の運営側としても、また参加者としても携わりました。訓練の前には、災害ボランティア講座もあり、基本的な部分から学びました。また、訓練会場の2階には、学生ボランティア団体の活動紹介をするブースを設けて、訓練に参加した地域の方々に対して、自分たちの活動を発信し、交流することができました。



⑥ 広島災害派遣

2014年8月20日に発生した広島土砂災害。発生後すぐに立ち上がった安佐北区ボランティアセンターでは、大学生災害ボランティアサポーター養成講座の受講生を中心に福岡県から派遣されて活動しました。その後も、NPO法人日本九援隊が定期的に広島で行う活動に、多くの学生たちが参加しました。「阿武の里 鯉のぼり・花いっぱいプロジェクト」には、本学で採取した「はるかかのひまわりの種」を届けて植えました。1周年にあたる「鎮魂と希望の千の灯り」には、寄せ書きも届けました。

法学部 国際関係法学科 有川桃子

急な斜面を頂上まで登ってきたおばあちゃん、息子の写真とお花と水をもって、毎日手を合わせています。被災跡地は、風景や空気、郷土の人の表情から、様々なことを教えてくれます。荒地に植えた「はるかかのひまわり」が咲いた時は、本当に嬉しかったです。寄り添うボランティア、こころのボランティアをこれからも大事にしていきたいと思いました。



⑦ 防災訓練 飯倉中央小学校

福岡市早良消防署が飯倉中央小学校にて防災訓練を実施した時に、地域の方々と一緒に学生たちが訓練に参加し、消火栓やAEDの使い方を学びました。また、震災ボランティアで活動した学生たちは、体育館で自分たちの活動についてパネル報告を行いました。



文学部 外国語学科フランス語専攻
鶴久菜々

飯倉中央小学校の防災訓練では消火器の使い方や人工呼吸の方法、避難所へ持っていくリュックサックには何を詰めていくべきなのか、避難所までのご飯の作り方などを皆で確認し合いました。いつ起こるか分からない災害に対するの準備をしておくというのはとても大切なことだと思いました。

⑧ 南三陸講演会

宮城県南三陸町廻館・旭ヶ丘行政区長の佐藤良夫氏に「東日本大震災の体験と現在の南三陸町について」講演をしていただきました。テレビや新聞の報道だけでは知ることのできない貴重なお話を伺いました。



神学部 神学科 興津ゆりえ

講演の中で、東日本大震災から5年経った今でも家に帰ることができずに仮設住宅に住み続けている人々が大勢いるという現実をお聞きし、震災はまだ終わっていないのだと改めて感じる事ができた。年々、東日本大震災に関するニュースが減少しており忘れがちになってしまうが、今後も自分のできる関わりを続けていきたい。

⑫ NGO 団体合同説明会

「NGO 入門講座」の後、団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアー・TO ワークキャンプの紹介などをしていただきました。福岡の NGO 活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。

〈参加団体〉

- (1) ACE 福岡グループ (NPO 法人 ACE)
- (2) NPO 法人 エスペランサ
- (3) 一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
- (4) Save the African Children
- (5) 九州国際ワークキャンプセンター (NPO 法人 NICE 九州事務局)
- (6) フレンズ国際ワークキャンプ九州 (FIWC 九州)
- (7) (特活) NGO 福岡ネットワーク (FUNN)



国際文化学部 国際文化学科 平野佳奈

海外でのボランティアに興味があり、友人に連れられてこの NGO 合同説明会に足を運びました。ボランティアといっても様々な形のものがあります。社会人から学生の団体まで幅広い団体があり、たくさんの人と繋がりを持つこともできます。きっと自分にあった活動の形・興味のある活動が見つかると思うので是非参加してみてください。

人間科学部 心理学科 内田優

数年前から漠然と海外ボランティアがしたいという思いがあったものの自分だけの力ではいつまでも活動が遠い存在のままだと思い、NGO 合同説明会に参加する事を決意しました。団体によって対象や目的、活動が異なっており学生主体のものもある為、自分の本当にやりたい事を見つける事が出来るはず。まずは説明会に参加し様々な団体と出会ってみて下さい。そうする事で夢がぐっと近づく事と思います。

⑬ APCC アジア太平洋子ども会議・イン福岡

アジアへの玄関口福岡に、毎年 30 を超える国・地域から約 300 人の 11 歳の子ども大使がやってきて、生活を共にし、友情を深め、世界の様々な問題について考えます。この企画運営のボランティアとして、多くの学生たちが参加し、子どもたちとの交流の中で、多くのことを学びました。



文学部 外国語学科フランス語専攻 眞井后由希

私はアジア太平洋子ども会議・イン福岡で、キャンプ部会に所属して活動しました。昨年は 7 月に、アジア太平洋の 30 を超える国と地域から 300 人を越える 11 歳の子ども達や大人の引率者が福岡にやって来たのですが、福岡市東区の海の中道で約 1 週間、彼らの共同生活のサポートなどをしました。福岡にいながら多くの国の人と出会える機会にはありませんし、「私たちはいつも世界の架け橋として繋がっているんだ」と思えることがこの活動の醍醐味です。

⑭ 1000 万着の HELP プロジェクト

企業と国連難民高等弁務官事務所が協力して、世界中にあふれている数千万人の難民の方々に服を届けるプロジェクトに本学も参加しました。学生ボランティア団体「Think&Act」が中心となって、学内外に呼びかけ、たくさんの服を回収し、届けました。



文学部 英文学科 吉村竜英

1000 万着の HELP をサークル活動の一環としてさせて頂き、身近な場所から難民支援ができることを実感しました。日本では当たり前になっている服を着る環境があり、服を持ちすぎて要らない服もあるはず。その服を送るだけで、他の人々の役に少しでも立ちたいと、活動を通して強く感じました。身近に始めることができる小さなボランティアも沢山ありますので、ぜひ、ボラセンへ足を運んでみてください！行動することで見えてくるものがあるはず！

⑥ 学内ボランティア

学内各部署合同募集説明会（2015年度実績）

大学内の各部署では、学生の皆さんに協力していただき、一緒に作り上げるさまざまなイベントや業務があります。各部署の募集するボランティアの合同説明会を実施しました。学内のボランティアでも、たくさんの学生たちが活動しています。

【参加部署】

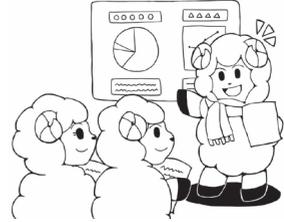
入 試 課：オープンキャンパスなど

広 報 課：Spirit（広報誌）特集意見交換など

エクステンション課：西南子どもプラザ スタッフ補助

国際センター：留学生サポーター、ウェルカムスタッフ
日本語学習チューター

ボランティアセンター：ボランティア活動全般



【内 容】

各部署のボランティア募集内容、申込み時期及び方法、ボランティア登録など



アンケートの感想から抜粋

- ・私は今4年生ですが、このようなボランティアをこの時期に募集していることを初めて知りました。時期が時期だけでももう少し早く知っていただければなあと思いますが、どれもなかなか経験できないことばかりだと思うので、ぜひ参加してみたいです。
- ・子どもと接するボランティアがしたい！外国の子どもたちと英語はあまり話せなくてもコミュニケーションをとりたい！
- ・多くの種類のボランティアがあり、とても興味がわきました！

① 広報課



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生のみなさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス 本館 2階

TEL：092-823-3248 Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

② 入試課



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約6,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、大学周辺バスツアーなどがあります。2日間で延べ130名もの学生が活動しています。

場所：中央キャンパス 2号館 2階
TEL：092-823-3366
Mail：adm-hp@seinan-gu.ac.jp

③ 国際センター



留学生サポートボランティア

留学生の日本語の授業のお手伝いや交流行事への参加、短期間のホームステイ受け入れなど、留学生をサポートする学生を募集しています。主に、留学生サポーターやウェルカムスタッフ、日本語学習チューターなどがあります。

場所：中央キャンパス 2号館 4階
TEL：092-823-3346
Mail：intleeduc@seinan-gu.ac.jp

④ 100周年事業推進室



西南100th Dream Planners

2016年は、西南学院の創立100周年！西南学院の中学生、高校生、大学生でチームを結成し、創立100周年を祝うイベントを企画しています。100周年を迎える今年も、学生メンバーを募集しています。

場所：東キャンパス 本館 2階
TEL：092-823-3186
Mail：sw100th@seinan-gu.ac.jp

⑤ 西南子どもプラザ

本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、経験、専門は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対 象：本学学生

活動時間：10：00～17：00 の都合の良い時間（日曜除く）

場 所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ

おもちゃの制作や消毒

行事の手伝い

外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207



⑥ 聖書植物園

大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園のメンテナンスに必要な草取り等の活動を行っています。

活 動 日：毎月 第3土曜日 9：00～12：00

持 ち 物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9：00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加O.Kです!）

問合せ先：総 務 課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316



⑦ 防犯ボランティア隊 Green Angel

「地域の安全は地域でまもる。大学の安全は大学でまもる」をモットーに、防犯パトロールや小学生の防犯教室を開催しています。福岡県アンピシャス運動にも参加しています。

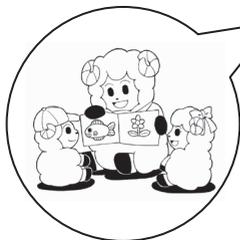
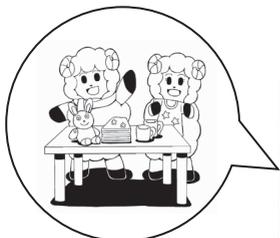
活 動 日：毎月 第1・3水曜日 15：10～

問合せ先：学生課 092-823-3837

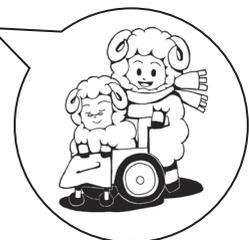


7 学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボラセンに来て探してみてください。



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります♪ 活動始めるヒントにしてくださいね♪



対 象	種 類	内 容
大 人	自然環境	海浜美化活動（ごみ集め）、街や公園の清掃活動、植樹 など
	国際交流 国際協力	ワークキャンプ、スタディツアー、難民支援（洋服回収）、留学生支援、硬貨の仕分け（国別）、日本語指導、イベントのお手伝い など
子 ども	災害支援	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練の参加、募金活動 など
高 齢 者	防 災	
障がい者	イベント	着ぐるみ、受付、設営・片づけ、手拍子やかけ声、レクリエーションの補助、出し物、遊園地の付き添い、ポスター作成、介護補助 など
外 国 人	まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、社会参加の協力（補助）、イベントの企画・運営 など
動 物	教 育	学習指導の補助、通訳、ノートテイク、ワークショップ開催、遊び相手、レクリエーションの指導、 など
植 物	動 物	小屋の清掃、お散歩、お世話、被災動物の保護活動 など

①福岡市社会福祉協議会からの紹介

社会福祉協議会からもさまざまなボランティア募集が届きます。中でも、早良保健所からのエイズデー街頭キャンペーンにて、「サザエさん・マスオさん着ぐるみボランティア」は毎年、人気です。



経済学部 経済学科 桐原望

私はサザエさんの着ぐるみを着て、商店街でのエイズデーのキャンペーンをするボランティアに参加しました。この活動を通して、地域の方々にエイズについて関心を持ってもらうとともに、自分自身もエイズについて知ることができました。サザエさんになることができる機会なんてめったにありません。とても楽しかったです。

②つくしんぼまつり

福岡市立つくし学園のつくしんぼまつりは、障がいのある方々と地域のみなさんとの交流を目的とした楽しいイベントです。会場設営や学園のみなさんが制作したパンやお菓子の販売を手伝いました。



人間科学部 社会福祉学科 平川綾子

ボランティアセンターの募集を見て「つくしんぼ祭り」に参加しました。当日だけのボランティアなので気軽に参加でき、バザーでの買い物や抽選会にも参加させてもらえ楽しかったです。他大学のボランティアとも知り合えたのも良かったです。抽選会ではホークスの選手の品物が毎年でそうなので、今年も楽しみです。

③復興ボランティア学ワークショップ

被災地(石巻)唯一の大学として、発災当時から支援活動を継続している石巻専修大学の山崎泰央ゼミナールの学生たちが来学し、被災地の“今”について生の声を聴きました。同時に、自分たちの住む地域の課題解決について、5大学、約30名の学生たちが一緒に考えました。他大学だけでなく、東北の学生たちとも交流を深める貴重な機会となりました。



人間科学部 社会福祉学科 松尾日菜乃

私は去年8月岩手に復興支援ボランティアに行ったことがきっかけで、復興ボランティア学に参加しました。石巻専修大学の学生と話をすることで実際に岩手に行った時に感じたこととは違う発見がありました。震災当時の話を聞き、子どものケア・支援の必要性をさらに実感し、私に出来ることの第一歩として地域の子どものプラザなどの場に足を運ぶことを決めました。また、色々な大学の学生と交流することで東北に対する意見・想いを共有することができ、とても貴重な経験となりました。

④ ACE 福岡

世界の子どもたちを児童労働から守るために活動しているNGO団体です。児童労働の現状を知らせ、撤廃と予防に努めています。事前学習を重ねて、福岡市立壱岐中学校の3年生に、「国際理解学習」の授業をワークショップ形式で行いました。



人間科学部 児童教育学科 高園みさと

私は9月にACEの活動の一環として壱岐中学校でACEの取り組みについて紹介しました。このボランティアを通じて、世界の人々の生活がいかに厳しいものなのか、その問題にいかにして取り組んでいるのかが知ることができました。また、子供好きの私にとって子供たちと触れ合う時間は大変有意義なものとなりました。

⑤ 姪浜商店街

福岡市西区の姪浜商店街と大学生が、お互いの場を行き来し、交流しています。商店街に通って、地域の方々と一緒に課題を見つけたり、イベントを企画する中で、学生たちの自由で斬新な発想が地域を盛り上げています。



文学部 外国語学科英語専攻 中島美奈

昨年4月、姪浜商店街カフェ巡りツアーへ参加し、地域を盛り上げたいと動く一人のキラキラしたオバちゃんに出会いました。活動を通じ、地域の皆さんと出会い対話する中で、教室では学べない学びが沢山ありました。新入生の皆さん、「地域」の活動は多様な価値観をみつけ、新たな自分に出会うそんなステキな場所ですよ～！

⑥ 若葉のふるさと協力隊

NPO法人地球緑化センターが主催する短期の田舎暮らしや農業体験プログラム。農山村で一年間住民として暮らしながら地域再生活動に携わる「緑のふるさと協力隊」の活動を3～5日間で体験します。地元の交流会やお祭り、農産物収穫などのお手伝いをします。

経済学部 国際経済学科 今村小雪

若葉のふるさと協力隊は、日本各地のいわゆる田舎で1年間緑のふるさと協力隊として活動している方の生活体験をすることができます。協力隊で日本の良さを改めて実感するとともに、都会で過ごす時間とは違う幸せ、村の方々の優しさを感じた幸せなど、この活動ではたくさんの幸せに溢れた経験をすることができます。



⑦あしなが

あしなが学生募金は親を亡くした家庭の子ども達や、親が障害により働くことができない家庭の子ども達に奨学金を届けるために街頭募金を行っています。

街頭に立ち寄付を呼びかけるだけでなく、ボランティアの高校生の募集を行ったり、報道機関に報道依頼に行ったりと、募金活動成功に向け様々な準備をしています。



経済学部 経済学科 樋口貴大

活動を通し、人の心の温かさを感じ、私たちが勉強する事ができているのは決して当たり前のことではないのだと気づかされました。また、一緒に活動してくれる仲間に出会えたことが一番嬉しかったです。準備を一から試行錯誤しながらすることで、人間的にも成長することが出来ました。あなたも是非、僕らの活動の例会に一度足を運んで下さい。

⑧まなびば

まなび舎は、様々な理由で学習環境が整っていない子どもたちの可能性を広げるために、安心できる居場所づくりや学習のサポートを行う取り組みです。

子どもたちが夢をつかむ「きっかけ」となると共に、学生自身が未来の社会を支える力を身につけています。子どもと向き合える若い力を必要としています。



商学部 経営学科 山下颯太

子どもたちは色々な悩みを持ってくる。全て私が代わって解決してあげたいという思いに駆られるも助言しかできない。まだこんなに小さいのに大丈夫かな？と思うが、次に会った時には何事もなかったかのように楽しく遊ぶ。そんな時に、他人の乗り越える力を知った。子どもたちは純粋な分、色々ひっくり返してくれる。

⑨あすのば

全国の支援者や当事者の学生たちが中心となって、子どもの貧困問題の解決を目指し活動している団体です。

イベントへの参加や企画運営を通して、子どもから大人まで幅広い世代の方と交流し、「子どもの貧困」という社会問題に取り組むことができます。



経済学部 経済学科 野中敏生

興味を持ったものに是非挑戦してみてください。私は、このあすのばが開催した合宿ミーティングで日本中の学生と出会い、一人一人と向き合う大切さや人の力の大きさを実感しました。子どもの貧困。この一言の中に様々な問題が複雑に絡み合っています。だからこそ、「私達が無関心になってはならない。」と思われました。

⑩ U S J ボランティア

小学生・中学生を対象としたユニバーサルスタジオ・ジャパン3日間旅行の引率ボランティアです。往復のフェリーの中や、パーク内で、子どもたちをまとめたり、一緒に遊んだり、良い経験になります。



国際文化学部 国際文化学科 森野椎

スムーズに行動できるように事前に何度も打ち合わせをし、先回りして動くということが思った以上に大変でしたが、旅行関連の仕事に興味があったので良い経験になりました。また、添乗員などの社会人、参加者である子供といった幅広い年齢層の人と交流することができ、これからの自分を考える刺激になりました。

⑪ チャリティサンタ

クリスマスの時期に、子どもたちに「夢」を届けるボランティア活動です。

子どもの喜ぶ笑顔にパワーをもらい、東北や海外の子どもたちへの支援にもつながります。



法学部 法律学科 庄島慎也

チャリティーサンタとは、クリスマスに依頼のあった家庭にプレゼントを届けその際のチャリティー金を使って東北やネパールの子供達を支援する活動です。私はこの活動を通じて、一つのボランティア活動を成功させるのに多くの準備が必要で、とても大変なことをしました。しかしそれ以上に多くの人の笑顔に出会い、やりがいを感じることが出来ます一緒に笑顔を広げる活動をしませんか？

⑫ オイスカ

アジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開するオイスカが主催する秋の収穫感謝祭でイベント受けや出店の手伝いをしました。毎年多くの参加者でにぎわうイベントです。

経済学部 国際経済学科 松葉蓮花

私は11月にOISCA というNGO 団体で農業を通して国際交流をする企画を運営しました。今回交流した研修生は10か国の国から集まっています。大学生で国際交流する機会は沢山ありますが、こんな多くの国からの人と仲良くできる機会はそうそうありません。そしてこの国際交流では主に日本語を使って話しました。国際交流といえば英語という印象ですね。勿論大事ですが、それに囚われていては勿体無いです。日本語で交流することで日本の価値の高さを知ることができますよ。是非参加してみてください。



学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ぜひ代表者へ連絡して、活動に参加してくださいね。

学生ボランティア団体合同説明会（2015年度実績）

学生ボランティア団体が合同で説明会を実施しました。ボランティアをしたい！何か楽しいことをしたい！ボランティアに興味がある人！どんなボランティアをしたいか悩んでいる人！たくさんの人と話してみたい人！一人ひとりが、団体や活動とつながっていきます。



(1) OPEN

活動日：週1昼休み(毎週水曜日の昼休み)
活動場所：チャペルセンター
代表者：酒井春太郎(人間科学部 心理学科)
連絡先：s18aq090@seinan-gu.ac.jp



OPENとは…(ボランティアセンターの学生スタッフです^^)

O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を！*

P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に！*

E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い！*

N…Network *人が“つながる”場所を作ります！*

今までの活動：広報活動(三角柱、ポスター作り：ノートテイク・支援学校) 他サークルのイベントのお手伝い、OPEN内での交流会、学外ボランティアの参加

今後の活動：ボランティアの企画、運営、OPEN内での交流会、企画、発案のためのマナビバ(最近のNewsや、気になる話題をシェアする学び場) 他ボランティアサークルとの交流会



こんな人集まれ!! :ボランティアを企画・運営したい人、なんでもいいからボランティアしたい人、こんな活動がしたいけど手伝ってくれる人がいなくて困ってる人、他サークルとの掛け持ちOK!!

(2) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：岩下七海（人間科学部 児童教育学科）
連絡先：s18an058@seinan-gu.ac.jp

のびっこの会は障がいをもった子どもたちとその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡-中央よりシグマソサイエティとして承認されました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は50名以上の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

また、活動以外にも本屋での絵本の読み聞かせやNHKでのボランティアにも参加しています。興味がある方はぜひ見学に来てください！（^o^）



(3) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:15～
活動場所：1号館410教室（部会）
代表者：谷本雄一郎（商学部 経営学科）
連絡先：s18ag127@seinan-gu.ac.jp

私たちが学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設に行つて、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関わること、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



(4) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期
活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・
西新商店街など
代表者：吉武勇建（経済学部 国際経済学科）
連絡先：s18ak016@seinan-gu.ac.jp

西南ラブ・グリーンは、eco活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡女子大学など他学校と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SUN SET LIVE という野外フェスや、大学祭でのゴミO推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアも行っています。



(5) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日
活動場所：西南会館5階
代表者：金子 聡（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s18ap078@seinan-gu.ac.jp

私たち、ワークキャンプ部は4大学合同（九州産業大学、九州大学、福岡女子大学、西南学院大学）の福祉系ボランティアサークルです。全体で約50人のメンバーが異なる訪問先を持つ5つの研究会・グループに分かれて活動をしています。主な活動は研究会ごとに月に2・3回程度、それぞれの施設を訪問して、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流をしています。他にも、サマーキャンプやクリスマス会の企画、レクリエーション、一緒に外出をさせていただいています。また、西南ワークキャンプ部では、高取にある「みどりのその」の利用者の方々と一緒にバザーのお手伝いなどもしています。

これからも、たくさんの方々との出会いを大切に一つ一つの活動を楽しんでいきたいです。お気軽にご連絡ください！



(6) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：チャペルセンターまたはクロスプラザ
代表者：上津原瑛也(人間科学部 社会福祉学科)
連絡先：s18ap040@seinan-gu.ac.jp

私たちは毎週水曜日4限に集まり、ご自身もろうあ者であり、手話の講義も担当していらっしゃる福田先生に教えていただきながら、手話やろうあ者の生活・文化な

どを学んでいます。学ぶ中で難しいこともありますが、毎週楽しく活動しています。NPO法人グランドワーク福岡が主催する「花のジョイントコンサート」というイベントに毎年参加し、昨年は手話で「世界に一つだけの花」を、今年は絢香の「にじいろ」を発表しました。また、手話検定も積極的に受験しています。難しいと思われるかもしれませんが、とても和気あいあいとした楽しく学べるサークルです！



(7) ノートテイクサークル

活動日：毎週水曜日昼休み
活動場所：1号館2階活動室
代表者：中嶋詩織(人間科学部 社会福祉学科)
連絡先：s18ap028@seinan-gu.ac.jp

ノートテイクとは視聴覚障がい者(弱視・肢体不自由・病弱・発達障害など)の方と共に講義を受け、先生の話される言葉を文字に起こすことです。私たちは毎週水

曜日に1号館2階の活動室を借りノートテイクのスキルアップやゲームを行い楽しく活動しています。実際に聴覚障がい学生と一緒に講義に入りノートテイクも行っています。2015年度はNPO法人の方からノートテイクに関する講義をしていただいたり、学内の他のサークルや、他大学のノートテイクサークルとの交流も予定しています。興味のある方は是非ご連絡ください！



(8) Think&Act

活動日：毎週木曜日
活動場所：代表者にお問い合わせください
代表者：橋本夏季（経済学部 国際経済学科）
連絡先：s18ak129@seinan-gu.ac.jp

Think & Actは国際協力、国際交流、国内ボランティアを行う学生団体です。2013年に出来たばかりですが、活動内容がとても濃い団体です。国際協力として

は、2014年にはカンボジアへ、2015年にはタイへワークキャンプに行きました。今年も東南アジアへのワークキャンプを考えています。そして西南に来ている留学生と一緒に遊んだり、ボランティアに参加したりして国際交流をしています。国内ボランティアでは、国連ハビタットの募金で集まった世界中のコイン仕分けや、九州北部豪雨で被害の大きかった黒木町へ定期的に行き、農業のお手伝いなどしています。またボーリング大会や、ハロウィン、クリスマスパーティなどのたくさんのイベントもあり、メンバー全員仲良く活動を行っています。



(9) 西南FIWC九州

活動日：不定期
活動場所：代表者にお問い合わせください
代表者：平野佳奈（国際文化学部 国際文化学科）
連絡先：s18ar112@seinan-gu.ac.jp

FIWC九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している大学は、九州大学、西南学院大学、福岡

大学などになります。活動を行っている国は、日本・中国・フィリピンの3カ国で、長期休暇（春・夏）を使って現地で活動します。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を、自ら企画・運営できるのが学生だけで活動しているFIWC九州の特徴です。海外ボランティアしたいけど、、と不安な学生の相談も受け付けますので、気軽にご連絡ください。



(10) いと

活動日：不定期

活動場所：1号館2階活動室

代表者：伊藤貴佳子（人間学部 児童教育学科）

連絡先：s18an055@seinan-gu.ac.jp

「いと」は、大学主催の東日本大震災ボランティアに参加した学生たちが、福岡でできる活動を始めようと2013年春に設立した団体です。「いと」とは、一つ一つの点の活動

をつなげて線にする、という意味が込められています。東日本大震災の支援活動として、街頭募金活動や、チャリティーイベントの参加、プレゼンテーションなど、活動幅は広く、これからは、東北だけでなく災害復興支援として、どんどん色々なことをやっていく予定です。定期的な活動はありません。イベントごとに各々が協力できる範囲で力を合わせる、というスタンスです。「こんなことやってみたいなあ」「こんなことできないかなあ」、と思っている皆さん！「いと」はそれを皆で実現していく場所です。ぜひ一緒に活動してみませんか？



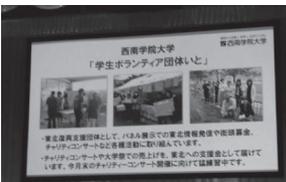
その他

学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」に、2014年度は、ボランティア団体「いと」が選ばれ表彰されました。これは、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。

過去の受賞団体

2014年度	いと
2013年度	手話サークルとびうめ
2012年度	Mits
2010年度	学生YM (W)CA
2009年度	西南ラブ・グリーン
2008年度	のびっこの会



印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)

- ・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
- ・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
- ・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体
- ・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



2015年度ボランティアセンター活動記録（前期）

通年	東日本大震災ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他
4月	・はるかのみまわりプロジェクト【植替え】(4/20)	・カンパニア大運動会プロジェクト(通年) ・＊＊＊事前に、赤白帽子、文房具などの寄付BOX設置(＊＊＊ラヂオ団体による) ・海外ボランティア・ワークキャンプ2014事後研修(4/6) ・アジア太平洋こども会議・イン福岡ボランティア募集説明会(4/30)	・ボランティア募集合同説明会(学内5部署)(4/23-4/24) ・広島土砂災害ボランティア派遣(4/18)【日本九援隊】 ※はるかのみまわりの種約500粒贈呈式(学生派遣)
5月	・はるかのみまわりプロジェクト【植替え】(5/11) ・2014年度東日本大震災復興支援イベント チャペル報告(5/28) ・新しい東北 in 神戸(5/30)【復興庁】 ※学生派遣	・アジア太平洋こども会議・イン福岡ボランティア個別相談会(5/11-5/17-5/20) ・ネパール大震災被災者支援の募金活動 ※学生ボランティア団体含む(5/20-5/21-5/22) ・2014年度海外ボランティア・ワークショップ(5/27)※チャペル報告	・広島土砂災害ボランティア派遣(5/2)【日本九援隊】 ※鯉のぼり・花いっぱいプロジェクト(学生派遣) ・福岡市学生サポーター説明会(5/11) ・広島土砂災害ボランティア派遣(5/16)【日本九援隊】 ※はるかのみまわりの種約1,120粒贈呈式(学生派遣) ・学生ボランティア団体説明会(5/19-21) ・学生ボランティアミーティング【あすみん】(5/22) ・福岡県・福岡市合同総合防災訓練 in 西南学院大学 ～災害ボランティアセンター運営訓練～(5/31)
6月	・福島県へ野球道具の送付(6/5) ・東日本大震災ボランティア募集説明会(6/17) ※2014年度春休み東北復興支援イベント活動報告 ・学内パネル展示(6/24) ※ボランティア団体による ・東日本大震災復興支援プロジェクト(6/27) ※来場者約400名 ※仮設住宅の方の作品を委託販売 ※ワークショップ「心は一つコースター！」	・NGO合同説明会【FUNN】(6/10)	・広島土砂災害ボランティア派遣(6/6)【日本九援隊】※学生派遣 ・ノートテイク講座(6/13) ・広島土砂災害ボランティア派遣(6/27)【日本九援隊】※学生派遣
7月	・東日本大震災ボランティア事前研修会【大学間連携】(7/22) ・東日本大震災ボランティア事前研修会【ババテスト連盟】(7/24-7/31)	・ルワンダ講演会(7/16)【法学部学内GPプログラム】 ※広報協力	・映画「チョコレートドーナツ」で考える人権(8/9) 【福岡市人権啓発センター】※広報協力 ・広島土砂災害ボランティア派遣(7/4)【日本九援隊】※学生ボランティア団体派遣
8月	・義援金(被災地支援) ・西南水募金(被災地支援) ・学生ボランティア(学習支援他)	・海外ボランティア(タイ:8/20～9/3)【NICE】 ※学生ボランティア団体参加・補助金交付 ・海外ボランティア(フランス:8/23～9/5)【NICE】※学生参加・補助金交付	・(TV放映)仙台放送みんなのニュース(8/19-8/20) ※石巻市で復興支援イベント始まる大学生の「発信力」に期待 ・大学生災害ボランティアサポーター養成研修(8/6-8/7)【福岡県主催】 ※養成研修 会場:西南学院大学 ・広島土砂災害ボランティア派遣(8/8)【日本九援隊】※学生ボランティア団体派遣 ・広島土砂災害ボランティア派遣(8/20)【日本九援隊】 ※一周忌「鎮魂と希望の千の灯り」(学生派遣)
9月	・ボランティア実践講座 in 前原公民館(9/11) ※東日本大震災ボランティアの活動報告 ・ボランティア派遣 若手9月(9/16～9/20) ＊5組会・チーム研修(9/9-9/14) ・復興支援イベント派遣 気仙沼市【大学間連携】(8/30～9/6) 山元町理理町【大学間連携】(9/6～9/13)	・国際理解学習～ in 志岐中学校～(9/11) 【特定非営利活動法人ACE福岡】 ※学生による授業(ワークショップ)	・ハンディキャップのある方の働く姿を見てみませんか？ツアー(9/8) 【認定NPO法人障がい者より良い暮らしネット】 ・久山療育園開園祭ボランティア(9/23) ・久山療育園 在宅支援センター建築募金(9/28～10/5) ・大学生災害ボランティアサポーター養成研修(9/26-9/27)【福岡県主催】 ※応用研修 会場:八女市星野村 本学学生も参加 ・三者連絡会議～防災事業に関する情報交換～ ※早良消防署・早良区役所・本学(9/3)

2015年度ボランティアセンター活動記録（後期）

通年	東日本大震災ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・神学部チャペルで報告(10/5) ※若手9月チーム ・ボランティア派遣 若手10月(10/7～10/11) ※引継ぎ・チーム研修(10/2・10/5) ・院長・学長・副学長を訪問(10/21・10/22) ※仮設住宅の皆様が作られた小物を預かって帰り、お土産としてお渡し。 ・教会で報告【鳥飼教会】(10/25) ※若手8月チーム ・教会で報告【自由ヶ丘教会】(10/18) ※若手10月チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア・ワークキャンプ説明会(10/28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サポーター後期募集、受付(10/14-10/15) ・「はじめて」わかるボランティア:国際～in 福岡市西高宮小学校～(10/2・16・21・23)※学生による5年生への授業 ・「はじめて」わかるボランティア:災害支援～in 福岡市西高宮小学校～(10/16・21・23)※学生による5年生への授業 ・GOOD ACTIVITY FESTIVAL(10/31～11/1)【あすみん】 ※学生ボランティア団体パネル展示 ※学生地域活動大賞発表会 審査員 ・地域の防災訓練参加及び情報発信(10/25)～in 飯倉中央小学校～ ※学生参加 ・「若い頃のボランティアが人生を豊かにする」～ボランティア先進国アメリカに学ぶシンポジウム～※「ボランティア」で学生がパネラーとして参加 ・(メール配信)Moodle配信開始(10/27)
11月	<ul style="list-style-type: none"> 弁当容器回収(被災地支援) ・教会で報告【古賀教会】(11/1) ※若手9月チーム ・教会で報告【長住教会】(11/8) ※若手10月チーム ・大学祭出店(学生ボランティア団体)(11/12～11/15) ※仮設住宅の方の作品を委託販売 ※インターンでお世話になった企業の食材で、食品の販売(サンマのつみれ汁、ホタテの焼きそば、金華サバ竜田あげ) ・東日本大震災ボランティア(チャペル報告) ※復興支援インターン(11/18) ・南三陸講演会 【非営利公益市民活動団体JVJV】(11/18) 		<ul style="list-style-type: none"> ・チャリティサンタ説明会(11/19) ※ボランティア団体による ・東日本大震災ボランティア参加大学生アンケート 【尚絅学院大学・西南学院大学共同研究】 ※アンケート協力(震災ボランティア参加学生)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ハガキ回収 ・福島県へホッカイロの送付(12/1) ・東日本大震災ボランティア報告会(12/14) ・仮設住宅へクリスマスカードの送付(585枚) ・東北学院大学シンポジウム(12/12・12/13) ・復興支援インターン募集開始(12/17) ・クリスマスカードの送付 【被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】(VIPカード企画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア・ワークショップ事前研修会(12/16) ・海外ボランティア(ベトナム12/19～12/25) 【NICE】※学生参加・補助金交付 	<ul style="list-style-type: none"> ・《新聞掲載》朝日新聞 ※震災ボランティア報告会 ・大学生との共働によるこみ減量施策の検討 【福岡環境局】※アンケート協力
1月	<ul style="list-style-type: none"> 義援金(被災地支援) ・春期復興支援インターン事前研修会【大学間連携】(1/19・1/28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1000万着のHELPプロジェクト(1/6～1/22) ～世界中の難民に洋服を届けよう！～ 【(株)ファーストリテイリング(ボランティア団体による)】 ・海外ボランティア・ワークショップ事前研修会(1/13、1/20) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> 学生サポーター(学習支援他) ・復興ボランティア学ワークショップ【石巻専修大学・山崎セミナー】 ※広報協力 会場：西南学院大学 復興支援インターン派遣 石巻市【大学間連携】(2/14～2/21) 南三陸町【大学間連携】(2/21～2/29) ・大学生災害ボランティアサポーター養成研修(応用研修)第1期：2/23～2/29 【福岡県主催】 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア(中国：2/15～2/29) 【FIWC】※学生参加・補助金交付 ・海外ボランティア(フィリピン：2/18～3/18) 【FIWC】※学生参加・補助金交付 海外ボランティア・ワークショップ事前研修会(2/23) ・海外ボランティア・ワークショップ派遣(2/26～3/7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島土砂災害ボランティア派遣(2/20) 【日本九援隊】 ※「元氣になる木広島」主催の第5回桜苗木植樹祭 100本の桜樹(学生派遣) ・久山療育園チャリティコンサート(2/27)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生災害ボランティアサポーター養成研修(応用研修)第2期：3/1～3/7 【福岡県主催】 復興支援インターン派遣 巨里町・山元町【大学間連携】(3/6～3/13) ・復興支援インターン派遣 気仙沼市【大学間連携】(3/13～3/20) ・大学生災害ボランティアサポーター養成研修～in 久留米市石橋文化センター～ 【福岡県主催】※シンポジウムで情報発信(3/19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア・ワークショップ派遣(2/26～3/7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・《新聞掲載》西日本新聞 ※継続的に被災地復興を支援 ・《新聞掲載》三紙合同企画朝日新聞・日本経済新聞・読売新聞 ※福岡県西方沖地震・東日本大震災に学ぶ(TV放映)NHKクロイチ! ※被災地で何を学ぶか ・福岡の学生が職業体験 ・(発行物) 2016年度ボランティアガイドブック

2016年度 学院聖句

「あなたがたは世の光である。」

マタイによる福音書 5章14節前半（新共同訳）

西南学院大学 ボランティアガイドブック

2016(平成28)年4月
発行／西南学院大学 ボランティアセンター
福岡市早良区西新6丁目2-92
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp
URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>
編集／西南学院大学ボランティアセンター事務室
印刷／株式会社 キャンパスサポート西南
SRプリンティングセンター